

参加費
無料

震災から15年

福島のいまと わたしたちの これから

電子紙芝居 ■「請戸小学校 奇跡の避難物語」
■ 浪江消防団物語「無念」

福島を支援する団体紹介、トークリレー

各団体の取り組み紹介

電子紙芝居など
お子さんや学生の方にも
わかりやすい内容に
なっています。

日時

2026年2月11日(水・祝)
14:00~16:00

会場

船橋市勤労市民センター ホール
(千葉県船橋市本町4丁目19-6)

申し込み〆切日

2月4日(水)

お申し込みはコチラから▶



★お申し込み〆切後、3日以内に確認メールが届かない場合は、メールアドレスの誤りや迷惑メールフォルダへの振り分け、受信設定によりお手続きが完了していない可能性があります。お手数ですが再度お申し込みください。



- JR総武線「船橋」駅南口より徒歩約5~6分
 - 京成本線「京成船橋」駅東口より徒歩約4分
- ※一般来館者用の駐車場はございません。お車で越しの際は周辺の時間貸し駐車場等をご利用のうえ、来館ください。

主催

福島を考えるフォーラム2026実行委員会

お問い合わせ先
平日9:00~17:00

生活協同組合パルシステム千葉
TEL:047-420-2605

生活クラブ生活協同組合(千葉)
TEL:043-301-4133

なのはな生活協同組合
TEL:043-216-7087

★各生協の組合員の方はご所属の生協へお問い合わせください。★生協の組合員ではない方はパルシステム千葉へお問い合わせください。

震災から15年 福島のいまとわたしたちのこれから

14:05~14:50

電子紙芝居 1「請戸小学校 奇跡の避難物語」 2 浪江消防団物語「無念」



浪江まち物語つたえ隊

2012年、当時仮設住宅で暮らしていた浪江町民ふたりで結成。広島県で活動する紙芝居作家・いくまさ鉄平氏が制作する紙芝居で、帰られぬ故郷を想い、その歴史、東日本大震災のこと、原子力発電所の事故のこと、その後の暮らし、それ以前の暮らしを語り継いでいます。ふるさとの記憶や震災の記憶を風化させまいと日々活動を続けています。



1 津波到達まで50分。一人の犠牲を出すこともなく逃げ切った「請戸小学校 奇跡の避難物語」



2 助けられた命があることを知りながらの避難、無念は何年たっても消えない浪江消防団物語「無念」。

15:05~15:40

福島を支援する団体紹介、トークリレー



東日本大震災復興支援 松戸・東北交流プロジェクト 黄色いハンカチ 門馬 正純氏

被災者、避難者同士の交流と居場所づくり、地域住民との交流、情報交換、支援物資提供、専門家による相談会、催しの開催などの活動をしています。「3.11から学んだこと・伝えたいこと」を地域の防災に生かす取り組みや原発事故の諸問題が未だ解決されていないことを人々に伝えています。



認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 石井 悠子氏

福島県の県外避難者支援・相談事業を受託しており、福島県から千葉県に避難している方たちの孤立を防ぐために、県内外の支援団体や自治体と連携して相談対応や交流の場づくりを行っています。福島県から千葉県への転居についての相談対応や手続きについての支援も行っています。



千葉県放射性廃棄物を考える住民連絡会 藤原 寿和氏

原発事故の影響で放射能濃度8000Bq/kg超の指定廃棄物が千葉県内で発生。国と東電の責任での撤去を求め本会を設立し、学習会や講演会、環境省への要望などを実施。千葉市蘇我の最終処分場計画は反対運動で白紙撤回へ、各地の仮保管場所の監視活動も行っています。

15:40~15:55

各団体の取り組み紹介

福島を考えるフォーラム2026実行委員会

- エナガの会
- 脱原発・市川市民の会
- 千葉県放射性廃棄物を考える住民連絡会
- 生活協同組合パルシステム千葉
- 甲状腺検診ちばの会
- 自給エネルギーの会
- 生活クラブ生活協同組合(千葉)

